



三重県保健環境研究所

みえ保環研ニュース

私たちは、皆様の健康で安全な暮らしを科学でサポートしています。

第 73 号(2019 年 6 月)

三重県の「『新・湯治』効果測定調査プロジェクト」

はじめに

我が国は、世界に誇る温泉大国で、全国には約 3 万の温泉があります。温泉は、最も主要な観光資源のひとつとなっており、国内外から年間約 1 億 3 千万人の宿泊客が訪れています。

三重県にも、台帳上 200 近くの温泉があり、長島（桑名市）、湯の山（菰野町）、榊原（津市）などをはじめとする、全国にその名が知れ渡る温泉地を擁しています。

加えて、超高齢社会を迎えている我が国においては、今後、地域の温泉施設を健康づくり資源のひとつとして活用していくことも重要です。将来的に、我が国の温泉地を、地域の健康づくり資源として最大限に活用していくためには、その活用方策を、大小様々な単位で戦略的に検討していく必要があると考えられています。

「新・湯治」プロジェクト

そのような中、環境省は平成 30 年 3 月、「全国『新・湯治』効果測定調査プロジェクト」の実施を発表しました。このプロジェクトでは、全国の温泉地で環境省が定める統一シートを用いた一斉アンケート調査を行い、その調査結果を統計的に解析して、温泉地滞在や温泉施設の利用による療養効果を、科学的に把握し、情報発信していこうという試みが展開されています。

そこで当所は、三重県内の温泉の療養効果把握の一助とするため、県内自治体や団体等に呼びかけ、この調査に参画することとしました。

調査の結果

三重県における本調査では、計 14 施設、500 名を超える利用者の方からの回答を頂き、その結果を統計解析しました。解析結果についての詳細は別に報告していますが、ここでは、その一部を御紹介します。

図 1 に温泉利用者の年齢層を示します。その結果、60 歳代以上が全体の約 6 割に達し、比較的高齢の方が温泉施設をよく利用していることが明確になりました。

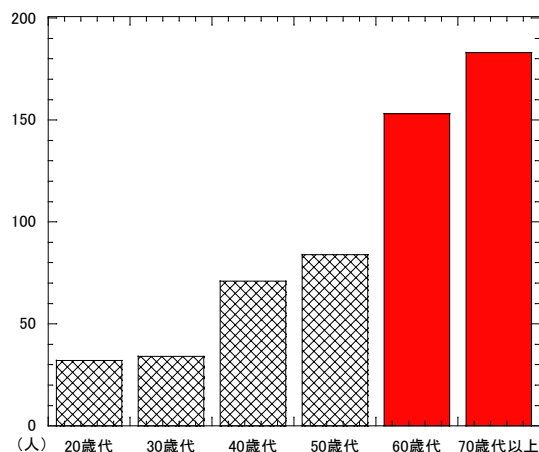


図1. 研究参加者の年齢層

このことは、高齢者への健康づくり施策に、温泉を関連させることが有効であるということのひとつのバックデータと考えられるかも

しれません。

また、図2に温泉地滞在後の感想に関する設問の中から「癒された」の結果について、図3に温泉地に訪れる前後の健康状態の変化に関する設問の中から「疲労が少なくなった」の結果について、それぞれ示します。

温泉地滞在の感想について、「癒された」のほか、全部で4つの設問項目について調査しましたが、その結果、いずれの設問項目でも、9割以上から好意的な回答が得られました。

さらに、温泉地に訪れる前後の健康状態の変化について、「疲労が少なくなった」のほか、主観的な健康状態に関する11の設問項目についても同様に、7~9割近くから改善されたとする回答が得られました。

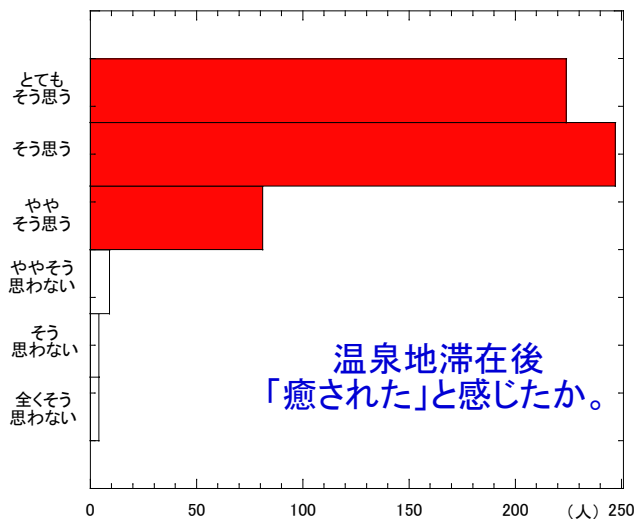


図2. 温泉地滞在後の感想に関する回答結果

最後に

温泉地に滞在したり、温泉に入浴したりして、癒されたり、疲労が少なくなるのは当たり前じゃないか、と思われる方もお見えにな

るかもしれません。しかし、これらの結果を詳細に統計解析すると、あたかも当たり前のように感じてしまっている温泉の健康増進効果の要因が、本質的に一体何なのかを探索することができます。

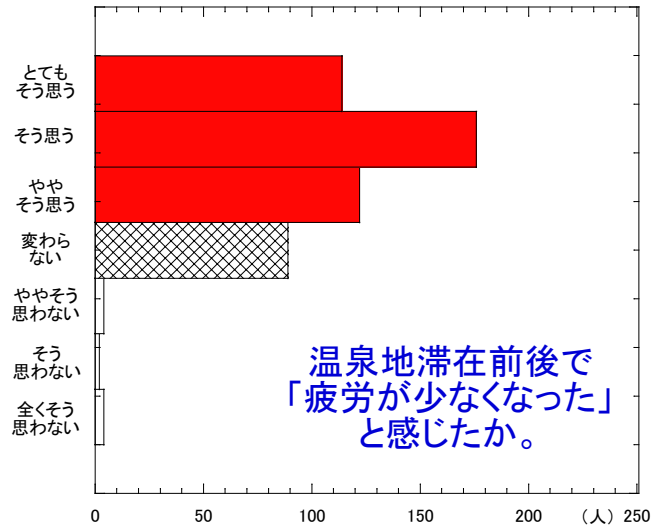


図3. 温泉地滞在前後の健康状態に関する回答結果

今後、全国で集積された調査データをもとに、温泉地や施設、利用客の特徴に応じた解析等を通じて、様々な要因探索が進められる予定です。

将来的には、このような研究成果をもとにした温泉の効果的な利用推進を通じて、三重県の温泉地の振興を目指して貢献していきたいと考えています。

本調査の一部は、一般財団法人日本健康開発財団の研究助成により実施されました。

1) 森 康則, 西 智広, 吉村英基 (2019): 標準地域における「『新・湯治』プロジェクト」のパイロットスタディ, 日本健康開発雑誌, 印刷中。

—編集委員会から—

みえ保環研ニュースについて、ご意見・ご質問等がございましたら下記までお寄せください。

三重県保健環境研究所

〒512-1211 三重県四日市市桜町3684-11 TEL 059-329-3800 FAX 059-329-3004

E-メールアドレス hokan@pref.mie.lg.jp ホームページ <http://www.pref.mie.lg.jp/hokan/hp/index.htm>

三重県感染症情報センターホームページ <http://www.kenkou.pref.mie.jp/>